

徳島県金融経済概況

1. 概況

- 徳島県内の景気は、回復を続けている。

すなわち、住宅投資は、持家を中心に増加している。公共投資は緩やかに増加している。設備投資は高水準となっている。個人消費は着実に持ち直している。こうした中、企業の生産動向は、一部で弱めの動きがみられるものの、全体としては緩やかに増加している。雇用・所得情勢をみると、労働需給は引き締まっており、雇用者所得も基調的には緩やかに持ち直している。

2. 実体経済

- 最終需要の動向をみると、以下のとおり。

設備投資は、高水準となっている。

6月短観における設備投資（全産業）をみると、2019年度は、前年を下回る計画となっている。

個人消費は、着実に持ち直している。

大型小売店の売上は、着実に持ち直している。

乗用車の新車登録台数は、新車投入効果等から、増加している。

家電販売は、緩やかな増加傾向にある。

住宅投資は、持家を中心に増加している。

公共投資は、緩やかに増加している。

- 企業の生産動向は、一部で弱めの動きがみられるものの、全体としては緩やかに増加している。

化学は、振れを伴いつつも、緩やかに増加している。金属製品は、高めの水準となっている。はん用・生産用機械は、一部で弱めの動きがみられるものの、全体としては高水準となっている。食料品は、横ばい圏内の動きとなっている。電気機械は、高水準ながら、弱めの動きもみられる。パルプ・紙・紙加工品は、このところ弱めの動きとなっている。輸送機械は、弱めの動きとなっている。

- 主要観光地の入込客数（5～7月）は、緩やかに増加した。
- 雇用・所得情勢をみると、労働需給は引き締まっており、雇用者所得も基調的には緩やかに持ち直している。
- 消費者物価（除く生鮮食品）の前年比は、0%台後半となっている。

3. 金融

- 民間金融機関の貸出（7月）は、前月に比べ前年比プラス幅が拡大した。
貸出約定平均金利は、前月比低下した（県内国内銀行ベース、7月末 1.282%〈前月末 1.292%〉）。
- 預金（7月）は、前月に比べ前年比プラス幅が拡大した。
- 倒産および信用保証協会の代位弁済については、落ち着いた状況が続いている。

以 上